

令和4年10月3日



学校だより10月号



横浜市立市場小学校 Tel(581)2107
けやき分校 Tel(580)0105

FAX(581)9387
FAX(580)0135

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ichiba/>

どうして学校に行くのかな

副校長 久保 壮史

「なんで勉強(べんきやう)してるの」「どうして学校(がっこう)に行くの」

保護者(ほごしや)の皆様(みなさま)の中には、お子様(こども)からこのように聞かれた経験(けいけん)がある方がいらっしゃるのではないかと思います。

私も現在(いま)は教員(きょういん)という立場(たちば)で毎日(まいにち)当たり前(あたりまえ)のように「登校(とうこう)」しているのですが、小学生(しょうがくせい)のときには学校(がっこう)へ行く道(みち)すがら、素朴(そぼく)にこんなことを考えたことがあるのを、今(いま)でもよく覚えて(おぼえて)います。

小説家(しょうせつか)の大江健三郎(おおえけんざぶろう)さんは、自身の作品(さく品)「自分の木(き)の下(した)で」の中で、学校(がっこう)に行く理由(りゆう)について次(つぎ)のように述(の)べられています。

いま、光(ひかり) (大江(おおえ)さんの長男(ちやうなん) 大江光(おおえひかり)さん)にとって、音楽(おんがく)が、自分の心(こころ)の中(なか)にある深く豊(ゆた)かなもの(もの)を確(た)かめ、他(ほか)の人(ひと)につたえ、そして自分(じぶん)が社会(しゃかい)につながつてゆくための、いちばん役(やく)にたつ言葉(ことば)です。それは家庭(かてい)の生活(せいかつ)で芽生(め)えたもの(もの)でしたが、学校(がっこう)に行(い)って確(た)実(じつ)なもの(もの)となりました。国語(こくご)だけじゃなく、理科(りか)も算数(さんず)も、体育(たいいく)も音楽(おんがく)も、自分(じぶん)をしっかりと理(り)解(かい)し、他(ほか)の人(ひと)とつながつてゆくための言葉(ことば)です。外国語(がいこくご)も同じ(おな)じです。

そういうことを習(なら)うために、いつの世(よ)の中(なか)でも、子ども(こども)は学校(がっこう)へ行く(い)くのだ、と私(わたし)は思(おも)います。

学校(がっこう)は様々(さまざま)な教科(きょうこ)や体験(たいけん)活動(かどう)での学び(まな)びを通して、多く(おほく)の人(ひと)と知識(ちしき)や経験(けいけん)を共有(きやうゆう)できる場所(ばしょ)です。大江(おおえ)さんは、学校(がっこう)に通(か)うことで、他(ほか)の人(ひと)とつながるための共通(きょうつう)の言語(げんご)を身(み)に付(つ)けられると言(い)っています。また、大江(おおえ)さんは家庭(かてい)の役割(やくわり)にも触(ふ)れられています。才能(さいのう)の原石(げんせき)である一人(ひとり)ひとりの子(こ)がもつ輝(かがや)きを見(み)つけることが家庭(かてい)生活(せいかつ)であり、その輝(かがや)きを確(た)かなもの(もの)としてい(い)くのが学校(がっこう)生活(せいかつ)なのだとも言(い)っています。

小学生(しょうがくせい)という発達(はつたつ)段階(たいせう)は、社会(しゃかい)性(せい)の基盤(きばん)を身(み)に付(つ)けるととても大切(たいせつ)な時期(じき)です。社会(しゃかい)へとつながる足掛(あしが)かりとなる小(しょう)学(がく)校(こう)での学(まな)びは、集(しゅう)団(だん)生活(せいかつ)で過(あ)ぐす時(じ)間(かん)の中(なか)で、自分(じぶん)の強(つよ)みや得意(とくい)なこと(こと)への気(き)付(つ)きとつながつているのです。

10月(じゅうがつ)には前(ぜん)期(き)の終業(しゅうぎょう)式(しき)を迎(むか)え、各(かく)学(がく)級(きゅう)では「あゆみ」が子(こ)どもたち(たち)に配(はい)付(け)されます。学校(がっこう)は「子(こ)ども自(みづか)身(み)が自(みづか)らを振(ふ)り返(かえ)って、次(つぎ)の学(まな)びへと向(むか)かってほ(ほ)しい」という思(おも)いをもつてこの「あゆみ」をお(お)渡(わた)しして(して)います。ご家(か)庭(てい)でもこの機(き)会(かい)に、頑(がん)張(ば)ったこと(こと)や伸(の)びたこと(こと)、また課(か)題(だい)について話(わ)し合(あ)って(て)み(み)て(て)ください。そしてお(お)子(こ)様(さま)自(みづか)身(み)が自(みづか)分の得(とくい)意(い)なこと(こと)や苦(にが)手(て)なことを知(し)り、自(みづか)分(ぶん)をより深(ふか)く理(り)解(かい)できる機(き)会(かい)として(して)ください。

学校(がっこう)に通(か)うのが大(だい)好(こう)きだ(だ)ったり、な(な)か(な)か足(あし)が向(む)か(か)な(な)か(か)つたり、今(きょう)日(じつ)も学(がく)校(こう)にはい(い)ろ(ろ)いろな子(こ)が登(のぼ)校(こう)して(して)き(き)ます。子(こ)どもたち(たち)から学(がく)校(こう)に行(い)く理(り)由(ゆう)を聞(き)かれた(か)た(た)とき、ど(ど)の子(こ)にも「だ(だ)か(か)ら、学(がく)校(こう)に行(い)く(く)んだ(だ)よ」と、大(お)人(と)として(して)い(い)つも自(みづか)信(しん)をも(も)つて語(かた)り返(かえ)した(した)い(い)もの(もの)です。

これ(こ)れ(れ)から後(ご)期(き)を(を)迎(むか)え、運(うん)動(どう)会(かい)や校(がく)外(がい)学(がく)習(じゅう)な(な)ど(ど)の行(ぎやう)事(じ)が(が)続(つづ)き(き)ま(ま)す。保(ほ)護(ご)者(しや)者(しや)、地(ち)域(いき)の皆(みな)様(さま)には、引(ひ)き続(つづ)き、ご支(し)援(えん)のほ(ほ)どよろ(よろ)しくお願(ねが)い(いた)し(ま)す。

